

佐賀女子短期大学付属ひしのみこども園

ひしのみだより

令和8年2月 3日

文責 園長 和泉 秀浩



冬の遊びの一例（遊びは学び）

このところ、寒い日が続いております。しかし、子どもたちは元気に園庭を駆け回っています。そのような中、気温が0℃を下まわる日が数日ありました。ひしのみこども園の気温計が、-5℃の日もありました。

右の写真は、この気温を利用した遊びの様子です。容器に水を入れて一晩寝かしたものです。最初は、容器に水を入れただけのものでした。しかし、子どもたちの発想は素晴らしく、色水や木の葉も一緒に入れて、リース（右写真）にしたり、氷のお皿を作ったりと日々工夫を加えています。

この、自然の中で氷を作ろうとする遊びが、以前にお伝えしていた「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」につながります。そのような自発的な遊びが生まれるように、本園の保育教諭は、子どもが興味を示す材料や環境を日々準備しています。

また、このような遊び体験が、小学校以降の学びにつながります。例えば、語彙力の形成や数の概念形成、理科の学習で生きるレジリエンス体験、各教科で生きる発想力などなど、小学校の学びで欠かせない基盤を培います。

牛乳パックに水を入れて凍らせた子がいました。牛乳パックの形の氷を見たときは、大人でもすごいと感じるものでした。

もし、ご家庭で、空き箱やトレイなどを使って遊んでいるときは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に向かっている姿として、応援してあげてください。

小学校に向けて（ひまわり組）

多久市では、「多久市幼保小架け橋期プログラム」に取り組んでいます。園児たちがスムーズに小学校ができるようにと、年8回の会議（市全体3回、学校区5回）を行っています。

その取り組みの一つが、「わくわく交流会」です。これは、小学生と園児たちが交流するものです。以前に、1年生と遊びの交流を行っていました。今回（1月30日）は、小学校生活のことを教えてもらいました。

まず、1年生が、登校の活動や授業の様子、給食の様子など、1日の学校生活を劇にしてわかりやすく教えてくださいました。そして、3年生が学校を案内してくれました。教える小学生の態度はとても立派でした。1年生も3年生も優しくわかりやすく接してくれました。子どもたちの不安は取り除かれたようです。

さあ、小学生まであと2か月となりました。園では精一杯活動しながら、小学校入学への準備を進めてまいります。



お知らせ

◎バスの送迎をしていた、山崎正弘先生が、1月15日に復帰をしました。

◎武富光紅先生が、3月より産前産後休暇に入ります。

※どちらもひしのみこども園にとって、おめでたいことです。